

遊ぼう

学ぼう

鍛えよう

吉野台



知識を知恵に、キーワードは体験!!

所長 永吉眞一



日本は海に囲まれ、美しい山、水のきれいな川など豊かな自然がいっぱい
 です。自然は私たちの生活に多くの恵みをもたらし、穏やかな気持ちにもさ
 せてくれますが、時に容赦なく猛威をふるい、人の手に負えないほどの災害
 を引き起こすことがあります。各地に甚大な被害をもたらした台風19号。沱
 瀝などによる浸水被害は前年度の西日本豪雨を上回り、千葉県では広域、長
 期にわたる大規模停電が発生したり、川崎市の武蔵小杉では、豪華なタワー
 マンションが停電、断水したりする被害が大きく報道されるなど、記録的な
 豪雨災害となりました。都市化が進み、便利な地域でも、大自然の脅威の前
 では電気、水道、ガスなどのライフラインが寸断されると、人々はなすすべ
 もなく、日常生活をとりもどすまでにかなり苦勞されている様子が伝わって
 きました。科学技術が進歩し、たいへん便利になってきた文明社会の脆弱さ
 が露呈したように思います。

今世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤
 となっている知識基盤社会と言われており、人工知能をはじめとする先端技
 術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会そのものの在
 り方が劇的に変化する「Society5.0」時代の到来が予想されるなど、今後ま
 すます便利で豊かな時代になっていくことでしょう。しかしながら、用意さ
 れた答えを探すだけの勉強だけでは、今回のような自然災害をはじめ、知ら
 ないことや分からないこと、はじめて向き合う課題に出会ったときに、適切
 に対応することはなかなかできません。科学技術の発展による豊かさを享受
 しつつも、次代を担う子どもたちが新たな課題に直面した時に、適切に対応
 できるような底力としての生きる力、人として社会の中で生きていく上で身
 に付けるべき素養をどのような場面、方法で身に付けさせていくか私たち大
 人社会の大きな課題でもあります。

学者の貝原益軒は「養生訓」の中で、「子どもを育てるには、三割のひもじ
 さと、三割の寒さを与えること」という一文を用いて、多少の厳しさ、不自
 由、不便さが人間を成長させるということを説いています。子どもたちは、
 ある程度の困難の中で努力しながら物事に取り組み、成し遂げる体験を通し
 て、我慢強さと行動力、そしてそれを支える自信と意欲、周囲と適切な人間
 関係を形成する能力等を身に付けていきます。オール電化が進み、調理の際
 の炎を見ることがすらもなくなりつつある現代社会……。私たち大人がいか
 してこのような体験の場や機会を創出し、子どもたちの背中を後押ししてあ
 げるのか、溢れるほどの情報から得た知識に様々な体験を積み重ねて、生き
 る知恵まで磨きをかけていくかが肝要であると思います。

少年自然の家では、次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾・
 ジュニア創志塾」をはじめ、「わくわくアドベンチャーin硫黄島」、「ワイル
 ドキッズ林間学舎」等、様々な体験活動をおとした青少年の健全育成に取り
 組んでいるところです。今後とも子どもたちの体験から生まれるものを大切
 にした施設運営の充実に努めてまいります。各学校の集団宿泊学習はもとよ
 り、スポーツ少年団、あいご会、PTA等、多くの皆様のご利用をお待ちし
 ております。

○	特集 次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾」	P1~2
○	特集 わくわくアドベンチャーin硫黄島	P3
○	少年自然の家で体験できるプログラム	P4
○	主催事業、寺山学習農園	P5~6
○	創作活動例、ポイントカード、令和2年度主催事業案内	P7~8

